

# 組織目標評価報告書（平成27年度）

部局名：

グローバル人材育成院

部局長名：

荒木 勝

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<b>①教育領域</b>	自己評価
①-1 目標	
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
<b>②研究領域</b>	自己評価
②-1 目標	
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
<b>③社会貢献(診療を含む)領域</b>	自己評価
③-1 目標	
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
<b>④センター業務</b>	自己評価
<b>④-1 目標</b> ・平成27年度に定員を50人から100人に倍増したグローバル人材育成特別コースの運営を着実に行う。  ・グローバル人材育成特別コースを履修する学生及びコース生以外の学生に対し、「自己のグローバル化」に関する意識の啓発を図る。	平成27年度からの定員倍増の対応として、平成27年4月1日からグローバル人材育成院で新規に教授と准教授を1人ずつ採用、また各学部の履修アドバイザーを増員し、指導体制を整えた。履修アドバイザー情報交換会を開催し(4月・7月・1月)、履修学生の現状や問題点を共有した。また、10月と2月に1年生を対象としたアンケート調査を実施し、その結果と分析に基づき、平成28年度に新たに開講するガイダンス科目と留学帰国後の科目のシラバス案を作成した。さらに、過去の結果と比較しながら、コース全体の管理運営についても分析を行った。  平成28年度からの60分・4学期制導入に対応するため、カリキュラムと時間割の大幅な見直しをし、講義の1単位化と選択科目の増加など、学生のニーズに応じた科目設定を行った。また、留学帰国者向けに「グローバルスタディズ3」の試行的特別セミナーの開催、および留学直前科目「コミュニケーション開発3」の試行授業を2月に開講した。  平成27年4月と12月に実施された全学統一TOEIC IPの27年度入学生の結果を比較したところ、コース履修学生は平均+40点と全学平均の+2点を大幅に上回るスコアの伸びを見た。全学の学生と比べて英語の必修科目が多く、またネイティブ教員の授業を受けていることや、語学研修に一定の教育効果があることを示している。  履修学生を含む一般学生の意識啓発の一環として、5月20日に元国連事務次長の明石康氏による講演会(「私の体験した国連」)を開催し、多くの学生・教職員が聴講した。11月18日には「オーディエンス参加型 英語スピーチコンテスト学内選考会」を開催し、7人(うちコース生4人)の学生が”How can Japan and the U.S. learn from each other to encourage men and women to work together for women’s empowerment?”というテーマで英語のスピーチを行った。この学内選考会で最優秀賞を受賞した本コース1年生が参加した駐大阪・神戸米国総領事館主催「第4回A O-K Speech Contest」において優勝し、本コースを履修する学生以外に対しても、「自己のグローバル化」に関する意識啓発を図ることができた。
<b>④-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b> グローバル人材育成特別コースの定員と現員 グローバル人材育成特別コースの学部等別履修申請者数 グローバル人材育成特別コースのカリキュラム表、シラバス、履修案内 グローバル人材育成特別コースの開設科目別履修登録者数 グローバル人材育成特別コースのサマープログラムと海外留学・インターンシップの整備状況 グローバル人材育成特別コースのグローバル・コア2(各学部開講科目)の整備状況 グローバル人材育成特別コースにおけるICT活用状況 グローバル人材育成特別コース履修者に対するアンケート グローバル人材育成特別コース履修者のTOEIC-IP点数 グローバル人材育成特別コース履修者の単位修得状況	
<b>【総括記述欄】</b>	・カリキュラムについては、平成28年度からの60分・4学期制導入に対応するため、時間割の大幅な見直しを行い、講義の1単位化と選択科目の増加など、学生のニーズに応じた科目設定を行った。 ・定員増に伴う学生への指導体制は、所属学部と言語教育センターの履修アドバイザーによる個人面談のほか、専任教員2人で定員増を行った1年生全員と2年生以上で留学先が決定していない学生を中心に個人面談を実施し、コースの履修状況および今後の履修計画とキャリアプランを確認した。こうした面談の効果もあり、3年生は約8割の学生、2年生は約6割の学生が、長期留学・インターンシップを修了することが出来た。 ・1年生の履修者については、履修説明会には200人近い参加者があったが、申請者は93人であり、最終的な履修者は10月のIB入試入学者を含め89人であった。コース発足時から、説明会参加者は約200人、申請者は100人前後であり、現状の副専攻としてのカリキュラム(平成28年度から24単位)では、こうした傾向は今後も続くと思われる。定員確保のためのコースの広報活動は今後も行うが、平成30年度からのさらなる定員増も見据えてコース制度の見直しを行う予定である。